

緑窓

第16号



青山学院中等部緑窓会会報

2007年(平成19年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 今村和久

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話/FAX 03-3498-5387

E-mail: ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

中等部卒業生の皆様と共に

中等部緑窓会会長 今村 和久(十期)



青山学院中等部の卒業生の会であり
ます「中等部緑窓会」は、一九五〇年
に創立されて以来今年で五十七年にな
ります。会員数も一万五千名ほどにな
っております。一期生から五十八期生
で七十三歳から十五歳の男女ほぼ同数

明るい新へ員を迎えられましたことは言葉に言い表せないほど
の嬉しさを感じます。そしてこれまで立派に教育されてきた中
等部の先生、職員の方々及び保護者の方々、また緑窓会の役割
をよく理解され、手弁当にて会の運営を担ってくださる事務運
営委員、及び各期の幹事の方々の御奉仕をこの場を借りまして
深く感謝するしだいです。

の方々で構成されている同窓会というものは、世界的にもあま
り多くはないでしょう。さらに青山学院のスクール・モットー
である「地の塩、世の光」であることの意味を学び、多様性の
ある世の中に出てそれぞれのお考えをもって生活を営んでおら
れるであろうことを思いますと、これら同窓の方々が一同に会
する機会を常に得る努力をし続けていきたいと念願せざるを得
ません。

緑窓会は青山学院校友会の中等部会として、校友会全体の
の構成部会の一つとしての役割を担っております。中等部だけ
ではなく、同じ建学の精神と教育方針を理解し学校法人青山学
院を応援する校友の仲間としての活動も展開しております。そ
のためには先ずこの緑窓会の活動を中等部の御理解を得て同窓
の方々の活発な交流の機会を提供していくことにしております。
どうか毎年開催される「緑窓会の日」の祝祭には是非多くの
方々が渋谷の母校に来てください。そこで皆様方とまたお会い
できるのを楽しみにしております。現役の生徒、学生の方々は
無料で参加できますから、お気軽にお出でください。

昨年度は中等部の六十周年を迎えました。肅々とした、内容
のある行事も取り行われました。卒業されて新たに緑窓会の
会員になられた方々は二百七十三名おられます。元気の良い、

にお願いました。講演は十八期の弁護士山田秀雄さんに次
の世代への継承で大切な相続と、話題になっていく熟年離婚
のお話をさせていただきます。冊数限定で山田弁護士の著書の
プレゼントもあります。十八期にはミュージシャンが多く、
学生時代の音楽を中心に懐かしいメンバー構成で行いますの
で、ぜひお集まりください。テレビに出ている人もいます。
CDを買おうとジャケットに作曲編曲者として名前が出てい
る人も入っています。学生に戻って皆で聴き歌いましょう。是
非ご参加ください。

第十八回「緑窓会の日」 二〇〇七年六月二日(土)

実行委員長 小平 昌邦(十八期)

「私たちの『青春』謳歌、それが次の世代への伝言」

私たちが満足した今をすこし楽しむことを次の世代に見せ
ることが、次の世代により良いものを伝える一番の方法であ
ると考えます。満足し充実した生活を送り、それを次の世代
に見せて、あのような生活を送りたいと思ってもらえること
が一番であると考えています。

今年の「緑窓会の日」は出来るだけ十八期で担当しようと
企画しています。礼拝は高等部出身の横山英実さんに司式を
お願いして、奏楽は十八期の田中正子さん、お話は横山さん
と東京神学大学同期で、現在、青山学院宗教学部長の嶋田教授

第十八回「緑窓会の日」のプログラム

日時 二〇〇七年六月二日(土) 十三時三十分～十七時三十分
内容

一、礼拝 十三時三十分～十四時二十分(青学講堂)

司式 横山 英実(高等部十八期)

お話し 嶋田 順好(青山学院宗教学部長)

奏楽 田中 正子(十八期)

二、講演 十四時三十分～十五時二十分(青学講堂)

講師 山田 秀雄(十八期、弁護士)

「相続と熟年離婚」

三、茶話会 十五時三十分～十六時二十分(女子短期大学食堂)

四、演奏 十六時三十分～十七時三十分(青学講堂)

演奏者 浜口茂外也、井田 昌之、伊東 保男、
松島 通昭、大塚由紀夫、関川 弘和、
白井万知子、高橋 義光、田中 正子、
吉野比洋兒(十八期)

猪野 佳久、村上(田中)希史子

戸室 隆一(高等部十八期)

「一九六〇～七〇年代の音楽を中心に」

プロフィール

●お話し 嶋田 順好 氏 早稲田大学政治経済学部卒業、東京神

学大学院博士課程前期修了。日本キリスト教団中渋谷教会の伝

道師、牧師を経て、青山学院大学国際政治経済学部教授。

●講演 山田 秀雄 氏 青山学院初、中、高等部、慶應義塾大

学法学部卒業、筑波大学大学院経営政策学部修了。山田・尾崎法律

事務所を主宰。企業法務、一般民事事件を中心に活動。テレビ、ラ

ジオにコメンテーターとして出演、また、著作活動の機会も多い。

●演奏 青山学院中等部、高等部十八期卒業生で、在学中および

現在、音楽活動をしている者が行います。プロ、アマチュアの混成

で、在学当時の音楽を中心に演奏します。

第十七回緑窓会の日

十七期 実行委員長 真藤 純一

「団塊の世代の大量退職期を迎えて・云々」なにかと「団塊」の文字が目につく。同期生の令嬢で世界的に活躍されているチェリスト、山上ジョアン薫氏をご紹介下さり、その一切を取り仕切られた。その定年期にも、その退職金が目当てか、再び注目されている。

我々十七期は狭義の団塊世代には入れてもらえない。といって「時代」がある。一点で単純に区切れるものでないことは、今は亡き窪田道二郎先生が「サツマイモの歴史」と名付けて説かれた教えの通りだ。しかし、サツマイモはサツマイモでもシッポはシッポで、十七期はいつも前の世代と後の世代にはさまれて、今ひとつその在り様をひそめて来た。で、どうしたということもないのだが、第十七回をどうしたものか、ということになった。思えば毎年の担当期は従来で言う定年齢の五十五歳。体調に変化の出る頃。緑窓会も年々高齢層は増えるわけで、「健康問題」に目を向けようと現中等部校医の西山晃弘慈恵医大医師に専門の心臓動脈硬化、そして除細動器についての講演を依頼した。しかしこれだけでは硬過ぎる。といって・・・という時に助け舟を出して下さったのが、団塊十四期の崎田克己氏で、同期生令嬢で世界的に活躍されているチェリスト、山上ジョアン薫氏をご紹介下さり、その一切を取り仕切られた。それは当日急遽の譜面台作製にまで及ぶ。こうして団塊のシッポは本体に助けられ、何とかその責任を果たした形だ。開会礼拝には六期の田坂興垂氏の奨励、一期の飯久保広嗣氏のアメリカ仕込みのオルガンの響きが得られたのも感謝の歴史。企画力、動員力ともに迫力を欠いた仲間が翌日まで飲んで歌った一日でもあった。



同期会便り

中高等部合同一期会

一期 島崎 光雄

二〇〇六年十一月十一日(土)二年毎に行っている中高等部合同一期会を、ご来賓の綿引静江先生、女屋信夫先生をお迎えて青学会館で行ないました。出席六十八名の兄弟が互いの無事を喜び、旧交を温めて豊かな恵みのときを過しました。

開会に先立ち、幹事の宇田川潔兄からこの二年間に斉藤賢、中村(池原)喜美子、林ふじ子の三先生が召天されたこと、同期の物故者、また伴侶を亡くされた方々の名が報告されました。続いて島崎より青山学院のスクール・モットーである「地の塩・世の光」(マタイによる福音書五章十三、十六)の聖書朗読と奨励講話、召天者とそのご遺族を覚えて祈禱を献げ、内海孚兄の音頭で乾杯、会食と懇談になりました。ブラハ在住の板倉正毅兄が

遠路出席され近況と思い出話、小林順兄による恒例の記念写真撮影、先生方のご挨拶と感謝の花束贈呈のあと、欠席された中等部の矢部先生、浜崎先生はじめ諸先生と一期兄姉のご健康と再会を願いつつ名残り惜しい散会となりました。



十四期大同期会のお誘い

十四期 松田 百代

五月十九日(土) 十七時三十分より青学会館に於いて中高等部高等部合同大同期会を開催致します。それに先だつて十六時より高等部校舎見学会も併せて企画しております。記念の年です。にぎやかに集りましょう。

中等部文化祭

十一月四日五日の両日、例年の様に多目的室の一部において、緑窓会の楽しい催しがありました。中等部六十周年を記念して、一期から六十期までの全員の写真が部屋の壁全体に張り出されました。もう一つ、一期から現在までの学費の変遷の一覧もあり、大変興味深く見ながら、自分の通っていた頃を思い出し、改めて親に感謝したり…。

この企画は、石出先生の大変なご尽力によるもので、心から感謝いたします。毎年の事ですが、お茶の用意などの準備も、石出先生のお心遣いにごさえられています。本年の文化祭には、皆様お立寄り下さい。二〇〇七年十一月十日、十一日開催されます。

十八期同期会

六月二日(土)「緑窓会の日」終了後十八時より青学会館
会費七千円

中等部卒業後四十年目の同期会です。地方や海外からも出席予定がありますので、皆様御参加下さい。



「緑窓会維持会費」について

二〇〇六年・二〇〇七年 二年間で二千元です。二〇〇六年に納入忘れの方は、よろしくお願い致します。納入済の方には、「緑窓会の日」の振込用紙のみ同封して居ります。

中部時代の部活の思い出ばなし

シリーズ5



保科 隆夫 (3期)

野球部が創設されたころ

中部部に野球部が創設されたのは終戦から二年足らずの昭和二十二年(一九四七)四月、男女共学の新制中部部が発足して間もなくのことでした。

一期生として中部部に入学した十二歳の球児たちは、その春早々、真剣に話合って野球部創設を立案しました。相談するにも上級生は一人もおらず、何もかも自分たちで決めなければなりません。



英語の矢部衛先生が野球部長に就かれ、体育の岩波正隆先生が指導に当たってくださいました。しかし、練習するにも自前のグラウンドはなく、用具を揃えるのもこの上なく難しい状況にありました。

当時、わが国は連合国の占領下に置かれ、連合国は日本の非軍事化を目的に政治・経済をはじめあらゆる分野で民主化政策を断行しました。教育面でも二十二年三月、学校教育法が公布され、直ちに新しい学制が実施されました。従来の小学校

六年に加え、中学三年を義務教育とし、高校三年、大学四年と単線型に改めるというものでした。

学制改革は早急に行われたため、教室や教科書など教育インフラが整わなかったのは当然でした。新設の中部部でも一、二期生は戦災を免れた旧制の高等女学部や中部部の校舎で学びました。事実、わが国の生産活動は事実上停止状態に陥っており、物資の欠乏は著しかったのです。物不足による極度のインフレは人々の生活を苦しめ、激しい労働争議が頻発、農村の疲弊は深刻な食糧危機をもたらし、一千万人が餓死するという観測すら報じられるほどでした。

野球は人の心を動かした

こうした混乱と困窮のなかで人々は当時ほとんど唯一のスポーツであった野球に夢中になりました。まったく先の見えない暗闇で一条の光を野球に見いだしたのです。戦争の激化により中断されていたプロ野球や東京六大学、全国中等学校野球大会(後の高校選手権大会)、都市対抗などが二十一年に復活し、スタンドに入り切れないほどの観衆を集めました。大人たちは再び野球ができる喜びにあふれた選手のプレーに日ごろの不安を忘れ、少年たちは手作りのバットとクラブを両腕に抱え込んで焼け跡に空き地を見つけ、では後楽園球場や神宮球場に見立て、たった一個のボールを追いかけました。

復活第一回の全国中等学校大会には十九の地方代表校が出場しましたが、各校の選手は自分たちが食べるコメを持参して参加しました。敗退したチームが残りのコメを相手チームに贈り、その後の健闘を願ったというエピソードを新聞で読み、心が震えたことを覚えています。野球はスポーツや趣味といった範疇を超え、人の心を動かすきわめて大切な存在だったのです。

グラウンド全体が輝いていた

私たち三期生が入学した二十四年四月、東京農業大学の敷地跡に中部部専用の新

校舎が落成、隣接の台地上にグラウンドも整備され、校舎の地下には各運動部の部室が設けられて野球部もその一室に入居しました。専門部と旧制中学部の運動部が使用していたグラウンドの片隅で自身のせまい練習を余儀なくされていた先輩部員の喜びは、後輩たちの想像をはるかに越えたものであったに違いありません。三期生は二十名以上が野球部に入門しましたが、上級生と一年生では体格も実力も大差があったからでしょう、同じ内容の練習は課せられませんでした。当初は外野でランニングやキャッチボールに終始していたと記憶しています。

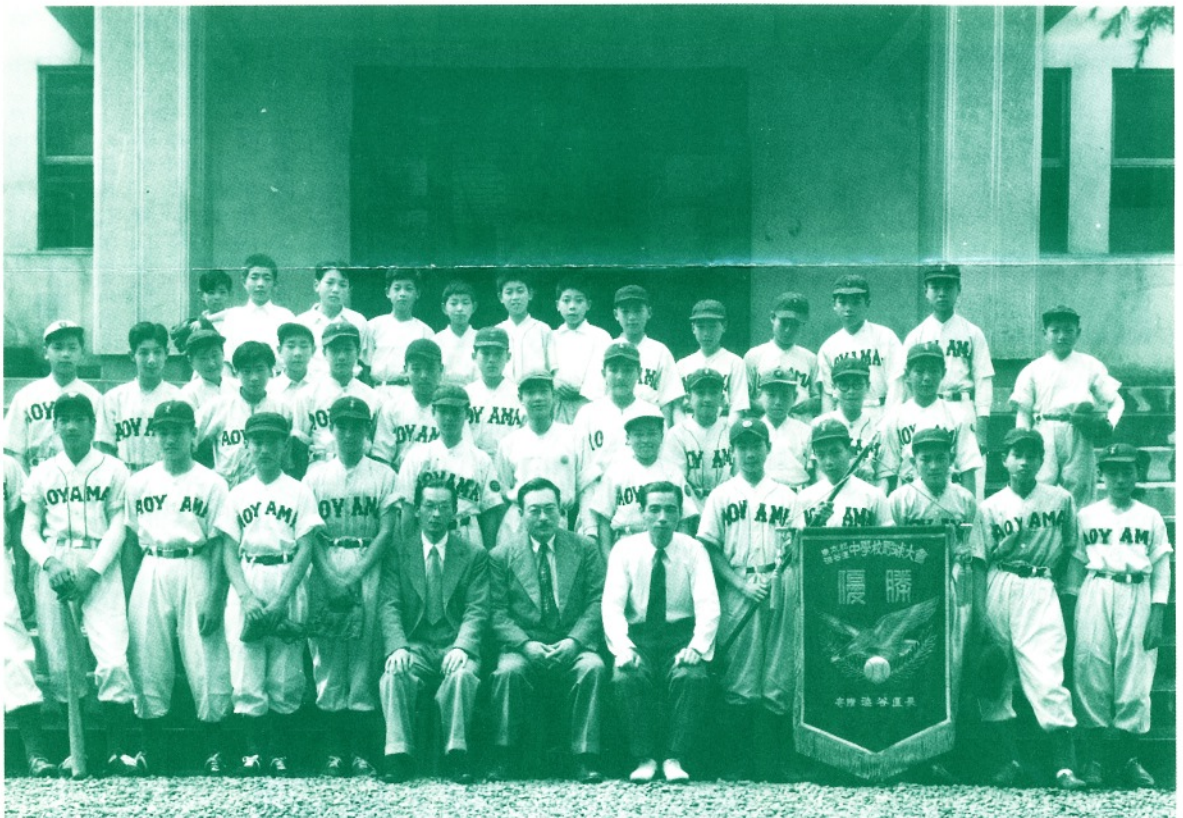
ライト側の塀が常陸宮邸との境界でした。上級生が打撃練習で邸内に打ち込んだボールを一年生が塀を乗り越えて回収に行ったこともしばしばでした。宮邸の庭園で草木をかき分けボールを探している私たちが邸内パトロール中の警官が手伝ってくれたこともあります。そんな毎

日でしたが、ボールに触れ、大勢の部員と並んでキャッチボールができる、そのようなことすら嬉しくてたまらず、グラウンド全体が輝いて見えたものです。

基礎練習の時期が終わると、岩波先生と先輩部員たちに走攻守にわたり手を取って指導していただきました。同期生同士、プレーについてアドバイスし合ったりもしました。年々、体も技術も成長して私たちはますます野球に熱中し、三年生のとき渋谷区中学校野球大会で優勝したこともあります。そのときのメンバーは高等部や他校に進み、野球部に入門した者のほか、他の運動部や文化部に所属した者もいましたが、それぞれの甲子園を目指して大いに励み、好結果を残しました。これも中等部の野球部体験という確たる礎石のゆえでありましょう。

往時を振り返って胸中を去来するのは、あの困難山積の時代に輝くばかりの日々を与えてくださった学校や先生方、先輩方、同期生や後輩部員たちに対する、あるいは、こうした人々と出会わせてくれた野球そのものに対する感謝の念のみです。この思いを筆舌により表すことなど到底できません。

中等部を卒業して五十五年が経つたいまも高等部の野球部OB会などを通じて学院の野球にかかわり続けているのも、感謝の気持ちのほんのささやかな一端であるかもしれません。



同期会便り

中等部・高等部合同三期会

三期 三宅 康之

二〇〇六年十月二十三日（月）青
学会館で中等部・高等部合同の三期
会が開かれ、六名の先生方を囲んで
卒業生九十九名が出席しました。今
回は「古希を祝う会」のため、アト
ラクシヨンとして、青山の後輩たち
によるハワイアンバンドの生演奏を
バックに、同期生のフラダンスと



ジャズの熱演やジャンケンゲームを
楽しみました。ジャンケンに優勝し
て七万円の賞金を獲得されたのは、
氣賀健生先生です。懐かしいジャズ
のBGMを聞きながら、若き日の思
い出話でおいに盛り上がり、予定
の三時間があつという間に過ぎまし
た。次回を二〇〇八年十月と決め
ましたが、「もつと早く開きたい」
という要望が多いため、幹事会で検
討の結果、二〇〇八年三月十二日（水）
に開催することになりました。
同期生との再会を今から楽しみに
しています。

中等部創立六十周年を記念して横断幕贈呈

二月二十日（火）十時三十分より青山学院講堂にお
いて、青山学院中等部創立六十周年記念礼拝が執り行
われました。

西田恵一郎宗教主任司式のもと、一同で讃美歌を斉
唱、生徒代表により聖書の朗読がなされ、祈祷の後、
聖歌隊による合唱が捧げられました。説教には野村祐

之氏（中等部十四期生、青山学
院大学・女子短期大学非常勤講師）
をお迎えし、「神の時、恵みの時」
と題して、中等部六十年の歴史
を振り返つてのお話をいただき
ました。ハンドベル部による演
奏の後、一同で讃美歌を歌い、
祈祷をもって式は無事終了いた
しました。

式後、深町正信院長、今村和
久緑窓会会長より、中等部創立
六十周年にあたってのお祝いの
挨拶があり、今村会長からは中
等部に対し横断幕の寄贈があり
ました。また、来賓で招かれた
懐かしい旧教職員の方々の紹介
も行われました。また、午後一
時より同会場にて、創立記念音
楽会が行われました。

山本祐之介氏（三十期）のチェ
ロと、小山西子氏のピアノ演奏
による音楽会で、山本さんは「懐
かしい母校で演奏でき嬉しい」
と語り、『愛の喜び』『愛の悲しみ』
などを演奏して下さいました。



伊藤いく代先生の喜寿を祝う会

十期 長谷川 節子

クリスマスを間近に控えたある日、中等部時代の恩師伊藤いく代先生が、二〇〇七年二月に、十四年間住んでいらした熱海市の函南を離れ、京都へ転居されるとうかがいました。二〇〇六年十一月に喜寿をお迎えになり、また同じく十一月に金婚式を迎えられましたので、こちらにいらつしやる間にぜひと、急遽一月二十一日(日)「伊藤いく代先生の喜寿を祝う会」を品川ビルにあるレストランで開催することに致しました。

上参郷先生のご子息、映画祭で受賞

三期 福井 あや子

吉川(旧姓・上参郷)和子先生のご子息で、ニューヨーク在住の吉川昌宏さんが企画・共同制作されたドキュメンタリー映画『ミリキタニの猫』が、二〇〇六年五月、ニューヨークのトライベッカ映画祭で「観客賞」を受賞、さらに同年十月の東京国際映画祭で「日本映画・ある視点」部門の「作品賞」を受賞しました。(リンド・ハッテンドルフ監督)

主人公のジミー・ツトム・ミリキタニ氏は、カリフォルニア生まれの広島育ち。帰米後、第二次世界大戦中に日本人収容所生活を体験した八十歳代の日系人画家で元路上生活

かなり急な、しかも年末年始の忙しい連絡となりましたが、多くの方々が協力してくださり、幹事五名感激するとともに、一九五九年三月卒業後四十八年もの歳月が流れた今でも、素晴らしい先生との出会いがあったことを喜び、懐かしい中等部時代を偲び、良き時代に良き学校生活を送ることの出来た幸せを共有している嬉しさを、実感いたしました。そして、いく代先生の英語の授業によって、英語が大好きな科目になったのは、私一人ではなかつ

者です。「戦争ではなくアートを創り出す」をモットーとするミリキタニ氏は、背を丸めたホームレスの姿で登場しますが、周囲の人々の尽力で社会復帰を果たすにつれて、生き生きした表情になっていきます。試写会では、大戦中の辛い体験を語る姿に、大勢の観客が涙を拭っていました。

ニューヨークでは「マサさん」の愛称でご活躍の吉川昌宏さんは、青山学院の高等部と大学経済学部の卒業生です。吉川和子先生は、八十歳を越えられた今でも、世田谷使徒教会で月一回のオルガン奉仕をしていらつしやいます。

たことを、再確認いたしました。

当日は、個展を開催中のお忙しい中駆けつけてくださった方、アメリカへの帰国を一週間延ばして出席してくださった方、はるばる北海道や軽井沢からいらしてくださった方、お母様の介護の合間にご出席の方、卒業以来中等部の集まりは初めて出席という方、美しい寄せ書き用の色紙を作り届けてくださった方等々、いく代先生をお祝いするために三十二名が集まりました。引越しのためのお疲れも見せず、新幹線で到着された先生を囲み、語り合ううちに、いつのまにか中等部時代の自分達がそこかしこに顔を出し、本当に楽しい、和やかな、嬉しい時を過ごすことが出来ました。

喜寿を迎えられたとは思えない、若々しくお元気で素敵なく代先生にまたお目にかかれることを楽しみに、やむを得ず欠席された方々に思いを馳せつつ、家路に着きました。



中等部便り

★二〇〇七年度人事

部長 山本 与志春
 教頭 千輝 克忠
 宗教主任 西田 惠一郎
 教務主任 浦田 浩
 指導主任 小田 文信
 教研主任 橋本 和美
 一年学年主任 山本 節子
 二年学年主任 疋田 好子
 三年学年主任 小田 井孝
 事務長 渡邊 哲

★異動

次の先生方が中等部を去られます。
 田中 拓生先生(理科)

一九八九年四月から理科第二分野を担当されました。
 今春から自然保護関係の仕事を目指して勉強され、将来は自然保護関係の仕事に従事されます。
 竹本祥次郎先生(事務長)

一九九六年四月から事務長として奉職されていきました。

一方、マラソン大会にも多く出場され、良い記録を出されていきました。

今春、停年を迎えられました。

草間 泰成先生(校医)

一九八八年五月から校医として奉職されていきました。

生徒をはじめ教職員の健康保持・

健康相談でお世話になりました。
 今春、停年を迎えられました。
 大木 京子先生(国語)

二〇〇一年四月から講師として奉職されていきました。今春より研究生活に入られます。

渡邊 健先生(英語)

二〇〇六年四月から中高人事交流で講師として奉職されていきました。
 今春より高等部へ戻られます。

★中等部創立六十周年記念行事

※運動会

二〇〇六年十月十一日(月)

二・三年生男子による組体操で、ピラミッドの最上段の生徒が「創立六十周年」の表示を行った。

※中等部祭

二〇〇六年十一月四日(土)・五日(日)

全卒業期のアルバム集合写真や各種資料の展示を行った。今年度の中等部祭でも展示予定でいます。

※創立六十周年記念礼拝

二〇〇七年二月二十日(火)

※創立記念音楽会

二〇〇七年二月二十日(火)

※記念資料集発行

二〇〇七年二月二十日(火)

中等部創立五十周年時に発行した「青山学院中等部の五十年」後十年間のまとめとして、さらに今後の記念誌発行時の資料として、資料集(十二ページ)を発行した。

2006(平成18)年度収支計算書

自 2006(平成18年)4月1日
 至 2007(平成19年)3月31日

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報制作費	750,592	2007年度入会金	819,000
会報発送費	1,148,250	維持会費	4,972,000
会業務用品費	625,086		
会交通費	89,147	寄付収入	51,000
水道光熱費	109,194	雑収入	10,200
通信費	210,760	預金利息	1,487
貸借料	12,000	前受会費(新会員分)	546,000
寄付金	148,746	前受会費	28,000
人慶費	136,080	チャンタミット献金分	2,612
雑費	88,934		
	100,000		
	15,000		
	26,585		
本年度支出合計	3,460,374	本年度収入合計	6,430,299
当年度収支差額	2,969,925	前年度繰越収支差額	7,946,152
次年度繰越収支差額	10,916,077		

会長 今村和久 副会長 西本由里子 監事 飯村肇
 副会長 崎田克正 会計 鳥居陽子 監事 田坂興重
 副会長 伊藤正 道

緑窓会会計報告